

今年4月血液腫瘍内科医師として就任 一番良い治療法を相談しながら決める

DOCTOR closeup



函館赤十字病院血液腫瘍内科医師

長谷部 理矩

今年4月、函館赤十字病院血液腫瘍内科の医師として着任したのが登別出身の長谷部理矩医師だ。「中学生の時に末期がんになった祖父は、化学療法によって10年近く生きることができまし

た。この時の経験から、がん治療を行う医療者への道を強く意識するようになった。」

札幌医科大学に進学。「在学中は呼吸器内科や消化器内科、腫瘍内科など抗がん剤治療を行う診

療科を選択しようと考えていました」

卒業後の初期研修は製鉄記念室蘭病院。「血液内科の研修で魅力ある上司に巡り会えたこと。それと化学療法だけで完治が目指せる治療を実際に担当したことから、血液内科にやりがいを感じるようになりました」。研修後は同病院内の血液内科の医局員となり、王子総合病院や札幌医科大学附

属病院、札幌清田病院で診療経験を重ね、今年4月函館赤十字病院に着任した。同病院内の血液腫瘍内科は平田康二院長との二人体制だ。血液がんは、血液細胞ががん化することによって起こる病気だ。白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫が3大血液がんと言われている。「当院では3大血液がんを中心に、他の内科で扱わない肉腫（サルコーマ）などの悪性腫瘍を診療しています」

血液がんの治療は抗がん剤を使用した化学療法が中心となる。「多くの血液がんは薬物療法によって病気の進行を抑えることができ、病気の種類によっては完治する人もたくさんいます。明確な治療の効果が他のがんに比べると分かりやすく、患者さんのすごく喜ぶ様子が多く見られるのも血液がんの特徴です」

「血液がんの早期診断は非常に重要であると長谷部医師は強調する。「血液がんには病状の進行が速い種類もあることか

ら、早期の診断と速やかな治療を開始することが、進行を抑え治療効果を高めることになりました」

長谷部医師は「白血病などと診断されるとショックを受ける患者さんは少なくありません。まずは疾患を正しく丁寧に伝えること。そして治療の選択肢などを分かりやすく説明して、一番良い治療法を本人や家族と相談しながら決めていくように心がけています」と話している。

はせべ りく

2019年札幌医科大学医学部卒業。

製鉄記念室蘭病院にて初期研修。製鉄記念室蘭病院、王子総合病院、札幌医科大学附属病院、札幌清田病院を経て、2025年4月函館赤十字病院に着任、血液腫瘍内科医師に就任。

日本内科学会内科専門医